

1. 2013年度の成果

(1) 雑誌・本

- a. 仁平尊明 2013. 農業地理学. 人文地理学会編『人文地理学事典』丸善出版, 452-455.
- b. 仁平尊明 2013. 観光の発展とその課題. 丸山浩明編『世界地誌シリーズ 6 ブラジル』地朝倉書店, 107-120.
- c. 仁平尊明 2013. 『ブラジル・サンパウロ州における農業調査』人文地理学研究. (印刷中)

(2) 学会発表

- a. 仁平尊明 2013年7月18日. エネルギー効率からみた北海道農業. 農業機械学会北海道支部第64回年次大会. (於: 北海道農業研究センター. 招待講演).
- b. Takaaki NIHEI 2013年8月5日. Fieldwork of tropical wetland in Brazil: case of the Pantanal. IGU (International Geographical Union) Kyoto Regional Conference 2013. (於: Kyoto International Conference Center).
- c. 仁平尊明・橋本雄一(北海道大学) 2013年9月28日. 積雪寒冷地の沿岸都市内部における津波避難(2)-釧路市町内会における高齢者の津波避難に関する分析-. 2013年日本地理学会秋季学術大会. (於: 福島大学).

(3) フィールドワーク

- a. 北海道道南地方の地域性(2013年5月)
- b. ブラジル・サンパウロ州のユーカリ栽培とサトウキビ栽培(2013年9月)
- c. 十勝平野の農業(2013年10月)

2. 2013年度の報告 (人文地理学研究へ原稿を提出済み)

タイトル: 主題図作成のためのデジタル・テンプレート

Digital templates for making thematic maps

キーワード: デジタル地図, 線記号, 面記号, 点記号, 文字記号

要旨: フィールドワークの資料をもとに作成した主題図には地理学らしさがあるが, 土地利用図などのミクロスケールの主題図を完成するためには時間がかかる. ミクロスケールの主題図には, シェープファイルなどのデジタルマッピング用のベースマップが提供されて

いないため、研究者自身でレイアウトを決定し、線を引き、面記号を入れ、点記号や文字を載せていくという仕事が必要である。

本報告では、地理学の研究者がなるべく早く主題図を作成できるように、コンピュータマッピング用のテンプレートをインターネットで公開することに加えて、それらの使用例を説明してきた。地理学には様々な分野があり、デジタルマッピングにも無数の方法があるので、ここで示した線・点・面・文字の各記号は一例にすぎない。今後、主題図作成のためのより良いデジタル・テンプレートに工夫されていくことが望まれる。その際、ソフトウェアやプリンターが変わっても対応できるように、汎用性のあるデザインを取り入れていく必要がある。また、GISや手書きのスケッチなどとの連携により、デジタル地図の表現方法を広げていくことも重要である。良い地図を作成するためにはセンスではなく経験が必要である。そのため多くの地図を見たり、製図したり、出来上がった地図を他人に批評してもらうことが大切である。

3. 2010年～2013年度の総括

研究分担者としてフィールドワーク方法論に関わる論文を4本公表し（上記1-(1)-c, 2, および下記のa, b), 学会発表を2件実施した（上記1-(2)-b, および下記のc). また、その他の科研費と連携して、日海道とブラジルを中心にフィールドワークを実施してきた。これらの成果により、当初の研究目的はほぼ達成できたと思われる。今後の課題は、これまで表発した論文や資料をデータベースとして長期的に公開していくこと、および研究の成果を教育の現場などで活用していくことにあると思われる。

- a. 仁平尊明・橋本雄一 2011. GIS と GPS を利用した農業の空間分析 —農林業センサスのダウンロードから土地利用図の作成まで—. 地理学論集 86: 115-126.
- b. 仁平尊明 2012. ブラジルの熱帯湿原におけるフィールドワーク. 北海道大学文学研究科紀要 137: 221-247.
- c. 仁平尊明 2012年1月27日. ブラジルの熱帯湿原におけるフィールドワーク. 第13回地理空間学会例会. (於: 筑波大学).

以上